

広報
あいづばんげ
12 2016 No.628



特集

ここから始まる

本の旅



昨年9月26日にオープンし、1周年を迎えた「ふくしま本の森」。

旧八幡幼稚園を活用したどこか懐かしい雰囲気が漂う館内には、さまざまな種類の本が所狭しと並べられている。

東日本大震災の復興支援として全国から寄せられた約4万冊の本をもとに立ち上げられたプロジェクトであり、出入りがありながらも常に多くの本が訪れる人々を待っている。

「ふくしま本の森」では、通常の図書館とは異なる仕組みで本の貸し出しがされ、思う存分、本に触れられることが魅力の一つ。

また、施設の運営はすべてボランティアの手によって行われており、活動資金は寄付や助成金でまかなわれている。

今回は、あらためて「ふくしま本の森」の紹介をするとともに、プロジェクトに携わる人たちの熱意に迫る。





「ふくしま本の森」とは？

東日本大震災後に、岩手県の遠野文化研究センターが三陸文化復興プロジェクトを立ち上げ、被災地の子どもたちへ贈る本の寄贈を全国に呼びかけた。すると全国から30万冊余りが集まり、三陸地方の教育機関などに本を配布したところ、約4万冊が残った。

そこで、それらの本を福島県での本の普及に役立てようと、廃園となっていた旧八幡幼稚園を利用して4万冊の本が運び込まれ、「ふくしま本の森」として、新しい形の図書館が誕生した。

全国初の本の共有システム

通常の図書館では、貸出カードで借りている人を管理し、返却期限を設け、借りられるのは一度に一人何冊まで、図書館内での飲食は禁止……といった制約が思いのほか多くある。

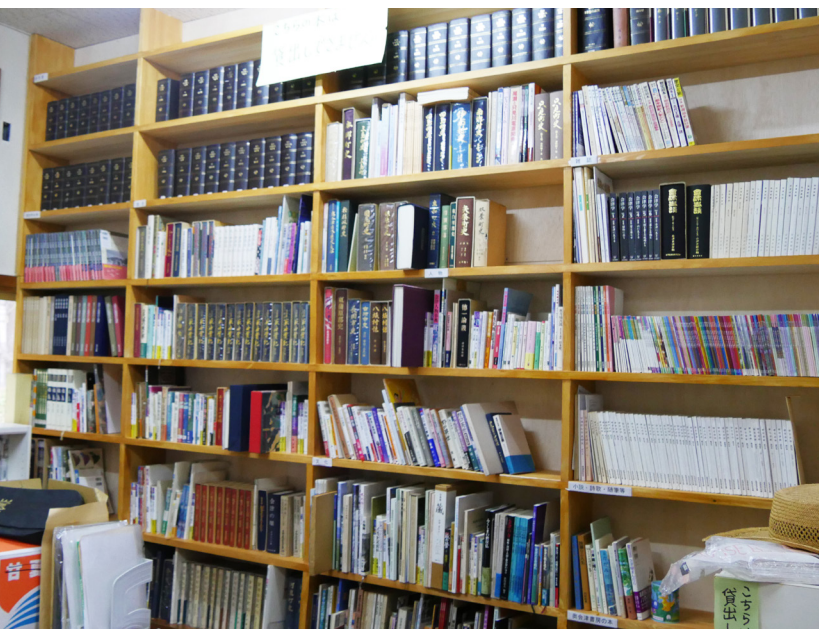
「本の森」には、それらの決まりは存在しない。何冊でも借りることができ、返却期限もなく、他人に又貸しすることもできる。館内でお菓子を食べながら本を読んでも構わない。本を読むのに疲れたら一休みして寝転がっていてもよい。

それぞれのペースで本に触れあい、時間を過ごすことができるのが「本の森」の特徴である。

本を読んでもらうための拠点

「本の森」がこのような仕組みを採用していることには大きな理由がある。それは、「本の森」を拠点として、多くの本を県内のあちこちに行き渡らせることが最終的な目的であるからだ。

その一環として「本の森」では、商店街や家庭の小さな図書館として、「街かど図書館」を設けてもらう取り組みも行っている。



「ふくしま本の森」の1年

岩手県遠野文化研究センター長であり、福島県立博物館長でもある赤坂憲雄さんとの縁を発端に始まったプロジェクトは、本の置き場所も見つからないという状況からたくさんの方々の力により1周年を迎えることができました。

オープン当初は本棚も足りない状況で、ダンボールに本を収納していましたが、今ではスタッフ手作りの本棚によって廊下にまで本が並べられ、いざというときに本棚が倒れてこないようにする耐震対策も完了しました。

また、助成金をいただくことができ、この1年では「本の森」を知ってもらうためのイベントや事業を行いました。

「本の森」で行っているイベントには、親子で楽しめる読み聞かせや季節のイベントのほか、近隣の古墳や史跡



「ふくしま本の森」代表
遠藤 由美子さん

を巡るものがあります。「本の森」が位置する場所が歴史的・文化的な価値のあるものに囲まれているからこそできたことです。
地の利を活かしながら、より多くの人に本を手にとってもらえるような取り組みをしていければと思います。

県内各地を本でいっぱい

「本の森」プロジェクトのもう一つの大きな柱が、「街かど図書館」の設置です。現在、県内では30か所以上の商店や施設に「街かど図書館」を設けており、本の普及に協力していただいています。

学校や図書館が近くにあれば、本を手にとる機会に困ることはないかもしれませんが、そういった公共施設から離れた場所に住んでいる方々は、本を身近に感じる事ができていないのではないのでしょうか。

「街かど図書館」の設置は、図書館が近くにない地域でも、本が手に入る環境をつくるための取り組みです。設置は、商店や食堂などに限らず、ご家庭でも可能です。「本の森」と同じ方法で貸し出ししてもらい、本が足りなくなれば「本の森」からまた新しい本を補充します。

町内では、広瀬コミュニティセンターと坂下南小学校に「本の森」から本を置かせてもらっています。けれども、まだまだ「街かど図書館」の数は

少ないです。

「本の森」の本が足りなくなるくらい、「街かど図書館」をいろんな場所に設けていただいて、地域に本があふれるようになればいいなと思っています。

紙の本の価値は永遠

近年、本をタブレットなどで読むことができる電子書籍が流行しており、全国でもその流れが広まっています。

そんな中で、紙の本の価値は何物にも代えがたいものだと考えます。ページをめくるとき、本を開くときの確かな感触とときめきは、紙の本でしか味わえないものです。

そんな紙の本のよさも含めて、「本の森」に来た人には存分に本を味わい、他の人にも感動を伝えてほしい。本は読まれてこそ価値があります。

また、5月からカフェもオープンしました。本を読みながら豊かな時間を過ごしていただけるよう、おいしいコーヒーやスイーツ・軽食も用意しています。



本の森カフェは、毎週日曜の午前11時～午後3時にオープンしています。



英語の本の読み聞かせをする、坂下町出身でイギリス在住のホワイトマン久美さん。「子どもだけでなく、大人にもよい場所。帰国したときにはぜひまた参加させてほしいです。」と話された。



取材時、ハロウィンの時期に合わせて行われていたイベント「かぼちゃランタンづくり」の作品。親子の楽しそうな声が響いていた。イベントは月に2、3回実施している。



広瀬コミュニティセンター内の「街かど図書館」。もともとセンターで所有していた本と「本の森」の本を合わせ、本棚をにぎわせている。

「本の森」を支える人々



館長・松本 幹生さん
まつもと みきお

私が「本の森」を訪れたのは、新聞に「本の森」プレオープンの記事が掲載されていたのを読んで、元々本好きだったこともあり「ちよつと行ってみよう」と思ったのがきっかけでした。活字離れが進む世の中ですが、本は読み手にたくさんのお話を教えてくれます。

「本の森」にあるさまざまな種類の本の中で、スタッフ一同、特別な思いを持っているのが絵本と郷土史です。絵本は、子どもに本を読むことの楽しさを教え、郷土史は、大人に地元への誇りと与えてくれます。

館内の本や町内に点在する古墳などの過去の財産を通して、会

津の地域性などについて学び、会津のよさを全国に発信できる人たちが育つ拠点に、ここ「本の森」がなればと思います。

丸山 ちか子さん
まるやま ちかこ

約1年前、「本の森」プロジェクト発起人代表の遠藤由美子さんから、「明後日には大量の本を運ばなくちゃいけないから手伝って！」とお願ひされ、8年間放置のうえ荒れ放題となっていた旧八幡幼稚園を、わけの分からぬまま夢中で掃除したところから、私と「本の森」との付き合いは始まりました。

「本の森」についてのマスコミ報道などで自然と多くの方が集まるようになり、できる人ができることをして、本棚を作ったり、本の整理をしたり、カフェを始めたりと、この1年間みんな「本の森」を作り上げてきました。今では私の一番大好きな、大切な場所です。

大塚 久則さん
おおづら ひさのり

会津若松のタウン誌『Voice』で、ここ「本の森」が紹介されているのを見て、ちょうど坂下町に立ち寄ったついでにと訪れたのが「本の森」との出会いです。以前私立の学校図書館で仕事を

していましたので、私自身、本はいつも身近な存在として側にありました。力になることが出来ればと思います、通い始めたのがきっかけで、主に本の整理や郷土資料の収集整理をメインにやっています。本の普及を第一に考えた貸出しシステムを持ち、すべて無償のボランティアで運営されている図書館はほかにないと思います。今後この素晴らしい取り組みに関わっていききたいです。



今回紹介した方々を含め、「本の森」には現在22名のスタッフがおり、それぞれの都合を考慮しながら平日や休日の施設の当番を行っている。

また、さまざまなきっかけで「本の森」やそこで活動する人々に魅せられ、加えて「本の森」が無報酬のボランティアで運営されていることを知り、本や大量のお菓子を寄付してくださる方もいらっしゃるのとことだった。

本への愛情と多くの人の善意、あたたかな想いが詰まった「ふくしま本の森」を訪れる人を癒し、新たな物語をもたらししてくれる、「とっておきの場所になるだろう。」



ふくしま本の森

開館時間：平日 午後1時～4時 土・日・祝日 午前10時～午後4時
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

※12月19日～平成28年1月16日までは休館です。

また、冬季（来年3月まで）は、日曜のみ開館となります。

住所：会津坂下町塔寺字松原 2922-1 電話番号：☎ 85-7680

ホームページ：http://hon-mori.d.dooo.jp/

Facebookは「ふくしま本の森プロジェクト」で検索 ➡



「街かど図書館」設置場所を募集しています。小さなスペースで構いません。ご協力いただける方は、お気軽にご連絡ください。

「本の森」でのイベント情報は、毎月25日発行の「きいてくなんしょ」に掲載中です。毎週日曜日は、「本の森」カフェをオープンしています。

